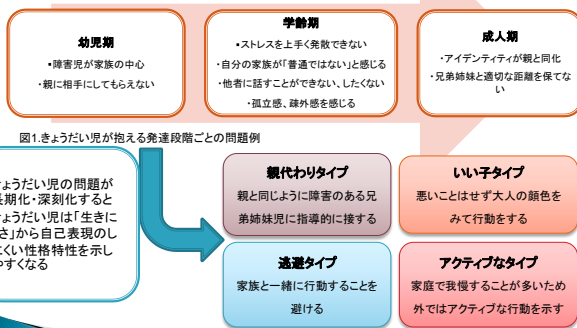


障害児者を兄弟姉妹にもつ健常 のきょうだい児の支援について

きょうだい児が抱える問題例



研究Ⅰ 方法

○内容

きょうだい児に必要な支援に関する調査

○調査対象者

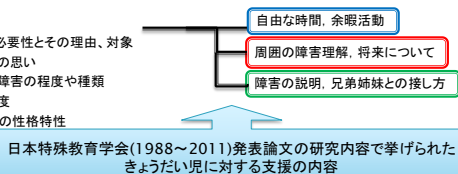
小学校4年生～大学生の障害児者の兄弟姉妹がいる男女29名(男性14名女性15名)配布70部。回収29部(回収率41.42%)

○手続き

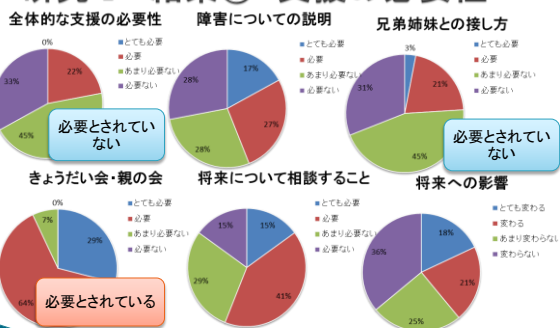
調査を依頼したきょうだい会や学校等に配布し、きょうだい児に対して必要な支援の内容や、支援をしてほしい人、必要な理由を把握する。

○調査内容

- ・支援内容と必要性とその理由、対象
- ・兄弟姉妹への思い
- ・兄弟姉妹の障害の程度や種類
- ・親の養育態度
- ・きょうだい児の性格特性

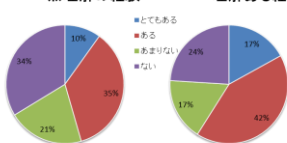


研究Ⅰ 結果① 支援の必要性

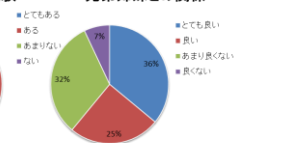


研究Ⅰ 結果② 兄弟姉妹との関わり

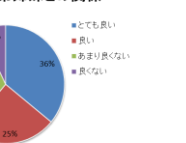
無理解の経験



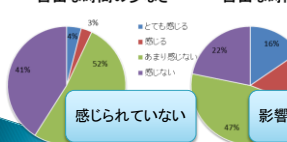
理解ある経験



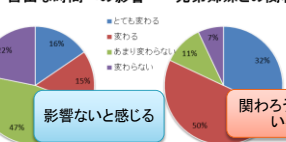
兄弟姉妹との関係



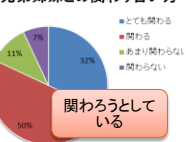
自由な時間の少なさ



自由な時間への影響



兄弟姉妹との関わり合い方



研究Ⅰ 結果③ 支援ニーズと年齢

支援の必要性について、「とても必要」を1点、「必要」を2点、「あまり必要ない」を3点、「必要ない」を4点というように得点化(平均得点12.59)。この支援ニーズを高群・低群に分けた。

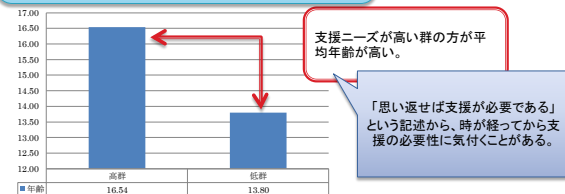
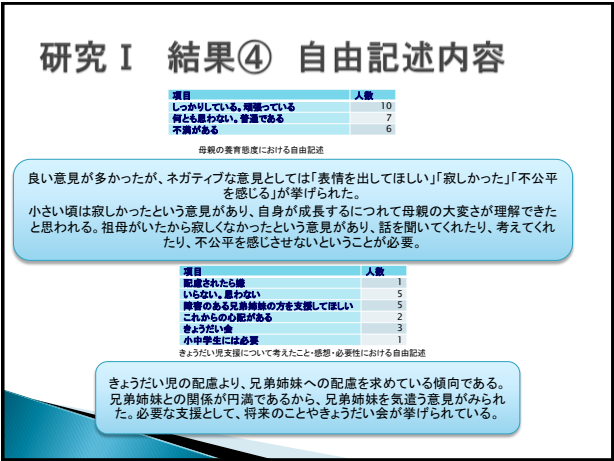
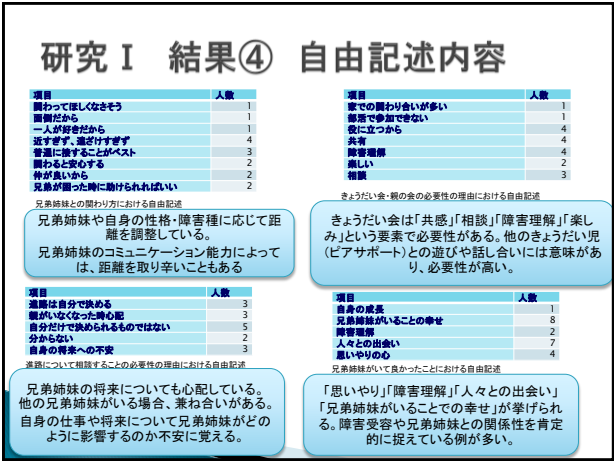
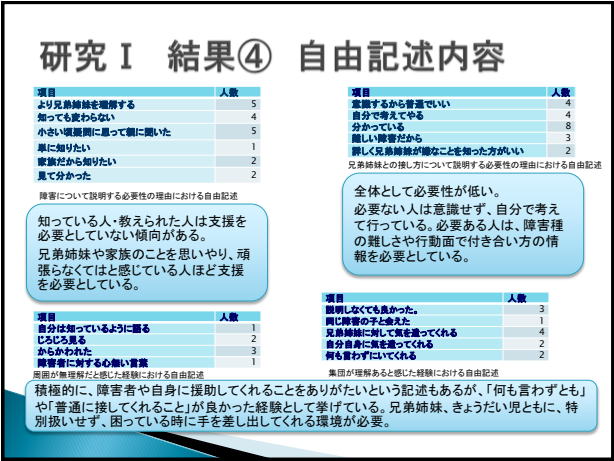
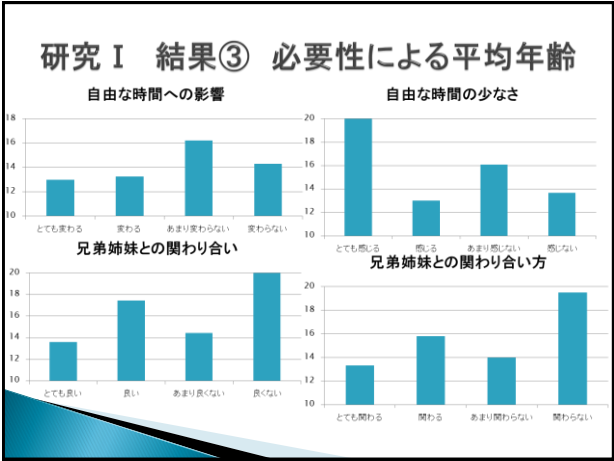
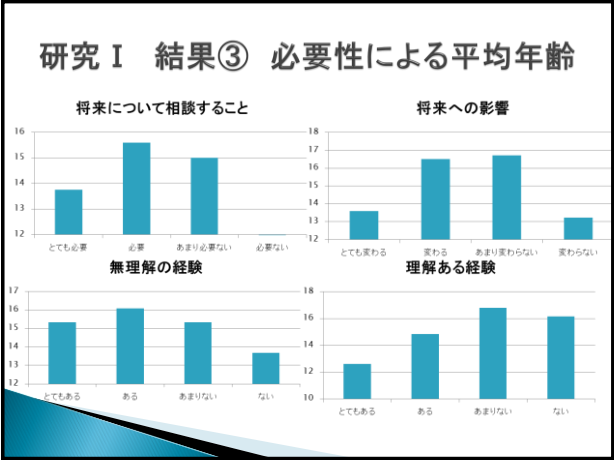
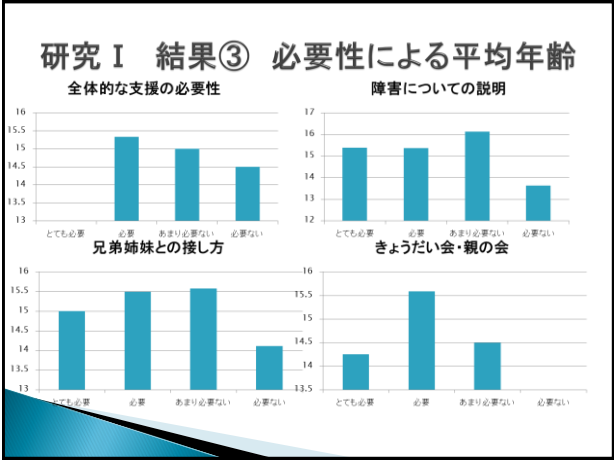


図3.支援ニーズ群と平均年齢



研究Ⅰ 事例的検討

支援の必要性について、「とても必要」を1点、「必要」を2点、「あまり必要ない」を3点、「必要ない」を4点というように得点化(平均得点12.59)。
特に支援を必要としている3事例(得点は6、8、8)

共通点

自由記述より、障害のある兄弟姉妹に対して「何かしてあげたい」という思いが強い

・私に初めてできた妹と弟なので、たまに怒りたくなることもあるけど、大好きで大切な存在。もっと一緒に遊んであげたい

・出来ることは何なのか、また考え直すべきだと思いました

・いっぱい支援してあげたい、幸せになってほしい、色々教えてあげたい

年齢はきょうだい児の方が年上

・きょうだい児13歳 兄弟姉妹11歳

・きょうだい児18歳 兄弟姉妹16歳

・きょうだい児14歳 兄弟姉妹12歳

年上で真面目に家族のことを考え、何かしなくてはと考えている人ほど、支援を必要とすると考えられる。

研究Ⅱ 方法

○内容

きょうだい児の支援に関する背景とその客観的な理解についての調査

○調査対象者

大学生の障害児者の兄弟姉妹がいる男女5名(男性1名女性4名)配布5部。回収5部(回収率100%)

○手続き

障害児者が兄弟姉妹に在る大学生の男女に配布し、きょうだい児の支援の背景要因について尋ね、きょうだい児自身の支援の必要性の客観的理解を図る。

○調査内容

年齢と性別(きょうだい児、兄弟姉妹、他の兄弟姉妹)

兄弟姉妹の障害種と障害による影響、困り感

周囲の理解や支援環境

自身の性格(被援助志向性)

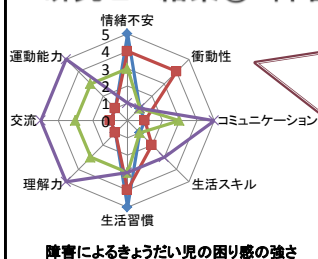
親との関係

兄弟姉妹との関係

・日本特殊教育学会(1988~2011)発表論文の研究内容で挙げられたきょうだい児の支援の背景要因

・研究Ⅰでみられたきょうだい児の支援の背景要因

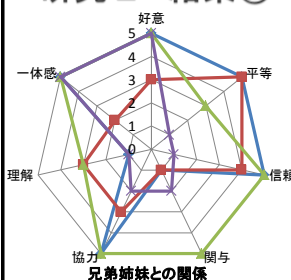
研究Ⅱ 結果① 障害における困り感



自閉症の場合
急な感情変化や衝動的な行動に困り感が生じている。
運動能力や理解力、交流への困り感は少ない。

肢体不自由の場合
急な感情変化や衝動的な行動への困り感は少ない。
運動能力や理解力、交流への困り感が生じる。

研究Ⅱ 結果② 兄弟姉妹との関係

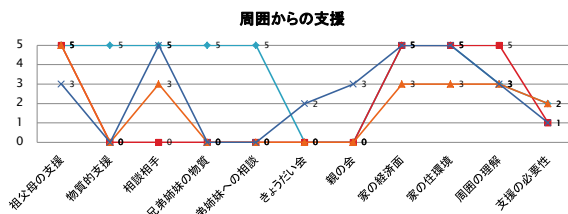


共通項
兄弟姉妹に好意をもち、家族としての一体感を感じている。
時折、兄弟姉妹のことを理解できない。

自閉症の場合
兄弟姉妹同士の関わり合いが少ない。
平等と感じる。

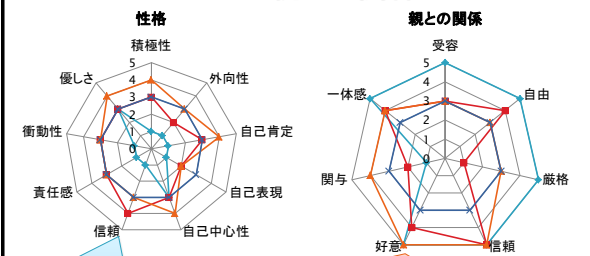
肢体不自由の場合
兄弟姉妹の関わり合いが少ない。
信頼できず、平等だと思にくい。

研究Ⅱ 結果③ 周囲からの支援



「祖父母からの支援」「相談相手の存在」がある。
「家庭の経済状況」「家庭の住環境」「周囲の理解」は支援されている。
「きょうだい児・親の会」について、参加している協力者が1名のみ。支援の状況も低い。
「物質的な支援」は1名が高い得点を示したが、他の3名は、支援が無かったと回答。
全体を通した「支援の必要性」も、4名とも低い得点となった。

研究Ⅱ 結果④ きょうだい児の性格 親との関係



「優しさ」は4名とも高く認識しており、「自己表現」や「外向性」については、4名とも低く認識している。

「親への信頼感」「親への好意」「家族としての一体感」が高い。
一方で、「親からの関与・干渉」の得点は年齢の影響から低い。

